A コース　（遊）

白百合女子大学　椎橋　げんき

米袋

米文化だから米袋は身近な素材か・・・。必ずしも身近と言えない素材なのかもしれません。しかし、「丈夫な紙袋」として関われば、紙×袋という素材です。紙も袋も身近な素材です。

米袋にはいくつか種類があります。それは米のkg別に大きさの違う袋です。大きさの違い、これも子ども達の関わりを大きく左右します。まずは米袋という素材の質、そして大きさを感じてみてください。

図１

【実践の様子（年長児）】

子どもの米袋との関わり方と大人の米袋の関わり方で圧倒的に違うことは、大人は「図１」のようにすっぽりと被れない、ということです。被ることで感じられる世界から「図２」→「図３」のように試したくなることも起こります。

図２

◇「図２」→「図３」

30 kg用の米袋ではすっぽりと被るあそびが多く見受けられます。「図３」は「図２」の男児が米袋に入り、ビニール袋では味わえない真っ暗な空間を体験したことで、穴を開けたくなり、またそこから外界を覗きたい気持ちが起こり、「図３」のように外が覗ける穴を位置も工夫して開けました。

図３

【活動の展開】

米袋を被る子もいれば、足から中に入る子もいます。その入り方も、肩まで入る子や腰まで入りふちを手で持ち跳ねるように移動することを楽しむ子など、入ってあそぶ、ということだけでもそのイメージは多岐にわたることがうかがえます。（図４、図５）

体を使ってあそぶ活動も見受けられる中で、「図６」などは米袋で遊びながら友達との関わりイメージの共有を図っていました。素材に触れ全身でイメージを感じ「図７」のようにイメージを具現化していきました。一方で、手の取ったと同時に切ったり描いたりする子もいます。

小学校の活動はそれまでの幼児期のあそびやその経験の積み重ねを考え、子どもたちが素材遊びを通して造形活動の学びを深めていける配慮が必要です。子どもそれぞれのイメージが展開していく中で、友達同士の関わりが協同する楽しさや意欲を育みます。

図４

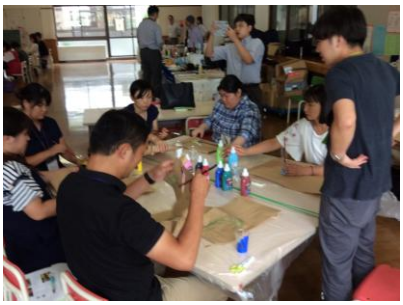
図５

【ぬかを扱う時の留意点】

「図１」、「図５」は再利用されている米袋で他は新しい米袋を使ってます。米は厚生労働省が定めるアレルギー物質を含む食品の「特定原材料等」として指定されている 25 品目に含まれていませんが、ごく稀に米アレルギーの子どももいると聞きます。使用する米袋をどちらにするか、などの配慮も必要かと思います（写真の活動時は使い方の違いを見るために両方使っています）。

左、図６

右、図７



Aコース